

# 第十四号

2012年10月1日発行



# JABLAS NEWS

## 目次

JABLAS 創立5周年記念行事（試験所の未来 夢・ロマン募集）について	・・・1
公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB）新任理事のご挨拶	
専務理事 事務局長 久保 真	・・・2
常務理事 認定センター長 藤巻 慎二郎	・・・3
World Accreditation Day（世界認定推進の日）に思う	・・・5
JAB 試験所協議会 会長 井須 雄一郎	
会員の声	
「ISO/IEC 17025 認定校正機関として」	・・・7
サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社	
ラボプロダクツ事業本部 ピペットサービスセンター 岩崎 奈緒美	
「ISO 15189 への取り組み」	・・・9
株式会社 大阪血清微生物研究所	
検査準備部 部長 吉川 栄	
活動報告	・・・12
今後の予定	・・・17
事務局だより	・・・18

## JABLAS 創立5周年記念 試験所の未来 夢・ロマン 募集のご案内

JAB 試験所協議会（JABLAS）は、ISO 規格に基づく試験所認定制度を基盤として、試験所の発展に寄与する諸活動を行なうために2009年4月に設立され、早4年目に入っております。

この間、JABLAS では中心的活動である ISO 関連事業（公開セミナー 専門部会 相談コーナーなど）に加え、試験所の経営に関する勉強会や塾などの開催も行ってきました。

ここまで来ることができましたのも会員各位の様々なご支援やご指導の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、来年度は創立5周年というひとつの節目を迎えます。この機会に、今後の更なる試験所の発展を願って、会員の方々より試験所（注）の将来に対する夢やロマンの募集を企画しました。

誠に忙しい折とは存じますが、以下の別紙詳細をご覧ください、奮ってご応募を賜りたくお願い申し上げます。  
（注）試験所：試験・校正機関、臨床検査室、検査機関、標準物質生産者

### 記

1. 主催 JAB 試験所協議会（JABLAS）
2. 対象 JABLAS 機関会員（会員機関内の職員の方はすべて対象）及び個人会員
3. テーマ 試験所の未来  
テーマに添っているのであれば、ISO や認定取得について、経営や営業視点、日本の試験市場、目指すべき姿、個人的願望、夢やロマン等ご自由にお書き下さい。
4. 内容量 A4（縦）2～4枚程度、ワードで文字の大きさはMS明朝12ポイントでお願いします。機関名、部署名 氏名 電話などは必ずご記入下さい。
5. 締切日 平成24年11月30日（金）までにメールでお送り下さい。
6. 応募先 JABLAS 事務局 メールアドレス [info@jablas.jp](mailto:info@jablas.jp)
7. 表彰 最優秀賞 1名 表彰状 賞金（¥80,000）  
優秀賞 3名 表彰状 賞金（¥20,000／1名）
8. 審査 下記の審査員（敬称略）にて審査、表彰者を決定  
審査員 委員長 河合 忠（JABLAS 名誉会員）  
委員 後藤 哲久（JABLAS 名誉会員）  
委員 宮川 雅明（JABLAS 契約 経営コンサルタント）  
委員 井須 雄一郎（JABLAS 会長）
9. スケジュール 平成24年12月～平成25年1月 審査実施  
平成25年1月1日発行予定のJABLAS NEWSにて応募状況の報告  
平成25年2月 最優秀賞 優秀賞 入賞者へ連絡  
平成25年5月23日（木）開催予定のJABLAS 総会にて受賞者の表彰及び最優秀者講演実施  
平成25年7月以降のJABLAS NEWSにて論文掲載（応募された方全員）

以上

## 公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB）新任理事のご挨拶 I



公益財団法人 日本適合性認定協会  
専務理事・事務局長 久保 真

## 新任ご挨拶

本年6月のJAB評議員会に於いて、JABの専務理事・事務局長を拝命いたしました。JABLAS会員の皆様には、これまでに多大なるご支援、ご協力を頂きましたことを感謝申し上げますとともに、引き続き宜しくお願ひ申し上げます。

JABは1993年の発足以来、ISO 9001やISO 14001認証、そしてISO/IEC 17025に基づく試験所認定をスタートに、製品認証、要員認証などへ認定を拡大し、日本における民間による第三者適合性評価制度の中核的な役割を担ってきております。

マネジメントシステム認証は、輸出をはじめとする商取引での活用もあって、急速な成長を遂げましたが、2005年頃に認証取得組織における不祥事が相次ぎ、その信頼性が大きく問われる事態となりました。2008年に経産省が信頼性向上に向けたガイドラインを発行したことを受け、これまで信頼性向上活動に取り組んできたところです。昨年には、これらの活動をマネジメントシステム認証信頼性向上イニシアティブ（JIREC）と称して全面展開を開始しました。今後それらの活動の成果を上げるとともに、信頼性は適合性評価の基本であるとの認識を持って、マネジメントシステム以外の適合性評価の信頼性向上にも展開してまいりたいと思います。

一方、民間の適合性評価制度の普及・利用は、マネジメントシステム認証数で見ますと、飽和、または減少の傾向にあり、また、試験所認定数については、これまで順調に増加してきていますが、諸外国に比して大幅に少ないのが現状です。

豊かさとともに安全・安心な環境を求める社会の要求は、今年の東日本大震災を契機に従来にも増して強くなっています。私は、こうした社会の期待に、第三者適合性評価制度が果たすべき役割は大きいと認めておりますし、この制度を日本の産業界が活用することで、産業競争力の強化にも貢献するものと考えています。

このため、今後 JAB は、適合性評価制度の普及及びその利用拡大に注力し、多くの組織が認定や認証を取得し、購買者や行政あるいは社会一般の人たちがその結果を利用するように、広報・普及活動に努めていきたいと思えます。

既に、JAB の広報体制を強化し、協会外関係者の協力を得て、「食品」、「環境」、「医療」、「中小企業」を主な対象領域に展開する広報戦略を纏めています。今後はこれに基づき、行政や産業界あるいは一般消費者に向けた情報発信や制度利用の働きかけを推進してまいります。

JABLAS 会員の方々には、JABLAS の場での相互交流により適合性評価能力の更なる向上を図っていただくとともに、適合性評価制度の普及や利用促進につながる行政や産業界の動きに関する情報提供など JAB 活動に対する一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

以上

## 公益財団法人 日本適合性認定協会（JAB） 新任理事のご挨拶 II



公益財団法人 日本適合性認定協会  
常務理事 認定センター長 藤巻 慎二郎

### JAB 試験所協議会（JABLAS）の皆様

本年 6 月より JAB 認定センター長を勤めています。よろしくお願いいいたします。会員の皆様には、日頃、試験所認定を通じて我が国の適合性評価制度の推進にご協力いただきありがとうございます。

JAB は、わが国における適合性評価制度および諸外国との相互承認体制の確立・発展を図り、それによってわが国の産業の健全な発展に寄与することを目的にしています。

近年わが国を取り巻く経済環境は、リーマンショック、欧州の経済危機により世界的な経済の低迷が続き、最近では中国でもかげりを見せ始めています。我が国もこの影響を受け円高が定着し、

特に製造業を中心に景気低迷が継続、海外展開を推進せざるを得ないという大きな転機を迎えています。

このような急速なグローバル化の中、わが国の産業の発展のためには、国際的に通用する標準に基づく業務遂行が最低限の必要条件になってきていると考えています。

特に試験所認定制度については、製品の商取引の観点だけでなく、昨年原子力発電所の事故を受け、安全・安心の観点でも重要な制度となっており、放射能・放射線試験分野の試験所の認定も増えてきています。

このような環境の中、一般の方々の「データ」に関する意識も高くなってきており、「データ」の信頼性に関わる要望が一層高くなってきていると思います。

JABLAS では、試験・校正に関する各種セミナー、専門部会、相談を通し広く普及活動を展開しています。

会員の皆様におかれましては、JABLAS を、是非有効に活用していただき、試験・検査技術の一層のレベルアップにより、試験所認定制度自体の信頼性向上を図っていただければと考えています。

JAB は 2012 年 9 月 4 日現在で 363 の試験所を認定させていただいていますが、外国の試験所認定の数に比べればまだ 2 桁少ない現状となっています。

今後とも、JABLAS 関係者の方々とともに、皆様のご協力のもと試験所認定制度の普及を通じ産業界の発展に寄与していきたいと考えていますのでよろしくお願いいたします。

以上

## World Accreditation Day（世界認定推進の日）に思う

JAB 試験所協議会 会長 井須 雄一郎

ILAC（国際試験所認定協力機構）と IAF(国際認定フォーラム)によって設置された合同委員会では、毎年6月9日を世界認定推進の日と定め、認定活動の理解と国際相互承認の一層の普及、世界レベルでの活用を推進しています。

今年のテーマは「Accreditation－Supporting Safe Food and Clean Drinking Water」  
(認定は食と飲料水の安全に貢献します) です。(注)

この「世界認定推進の日」の狙いは、正に JABLAS 設立の主旨に合致するもので、JABLAS として全面的に賛同致します。このため、JABLAS は JAB と協調して、当該年度のテーマに限定した行事に限定せず、年間を通して種々の活動を強力に推進する所存です。

日本では、一頃よりは ISO/IEC 17025、ISO 15189、ISO/IEC 17020 等の認定制度や国際相互承認の認知度が高まってきたとはいえ、残念ながら諸外国に比較して普及がまだまだ遅れています。

行政、試験所、企業、消費者等の利害関係者の意識が、毎年、6月9日を契機に向上し、一日も早い普及が実現するよう願わずにられません。

認定制度や国際相互承認をより普及させるためには、成功事例をもっと関係者に知ってもらうことが重要と考えます。近く、JABLAS 会員及び JAB から認定を取得された試験所の皆様方へ、認定を取得されてどのようなメリットがあったのか、アンケート調査及びヒアリングをさせて頂く予定です。

御多用中とは存じますが、主旨を御理解いただき、よろしくご協力の程お願い申し上げます。

なお、公益財団法人 日本適合性認定協会 (JAB) のウェブサイト (2012年6月27日付) には、「世界認定推進の日」に対する認定機関としての活動計画が紹介されていますので、併せてご参照ください。

(注) 2011年のテーマは「Supporting the Work of Regulator」  
(認定は規制当局の業務を支援します) でした。

以上

# World Accreditation Day



9 June 2012



**Accreditation:**  
Supporting safe food and clean drinking water

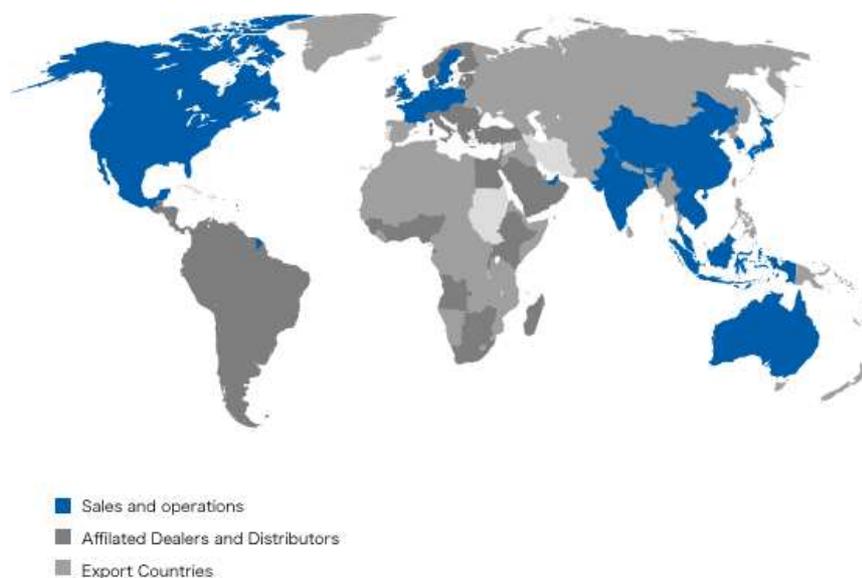
## 会員の声（その1）

### 「ISO/IEC 17025 認定校正機関として」

サーモフィッシャーサイエンティフィック株式会社  
ラボプロダクツ事業本部 ピペットサービスセンター  
岩崎 奈緒美

#### 1. はじめに

弊社は、1902年にアメリカで設立され、「世界をリードする科学サービス企業」のスローガンのもと世界に拠点を広げ、現在は150カ国に社員を持ち、その歴史は今年110年の節目を迎えました。取扱製品はライフサイエンス分野を中心とした理化学機器で、大きなものは分析装置や実験室キャビネットから小さなものは試験管やビーカー等の消耗品にいたるまで多種多様の製品を研究機関、病院、大学等へ納入しています。



#### 世界のサーモオフィス

その中でも私たちの属するピペットサービスセンターはマイクロピペット（体積計）の修理、メンテナンス、校正（キャリブレーション）を行う施設として、弊社のグローバル展開における主要国に開設されており、そのうちISO/IEC 17025を取得しているセンターは、ピペット工場のあるフィンランドをはじめ、ドイツ、フランス、日本と4カ国あり、日本はアジアのリーダー的役割を担っています。

私たちは約1.5年の準備期間を経て、2009年5月にJABにおけるISO/IEC 17025の認定を取得しました。その後2回のサーベイランスが無事終了し、現在4年目に入ったところです。



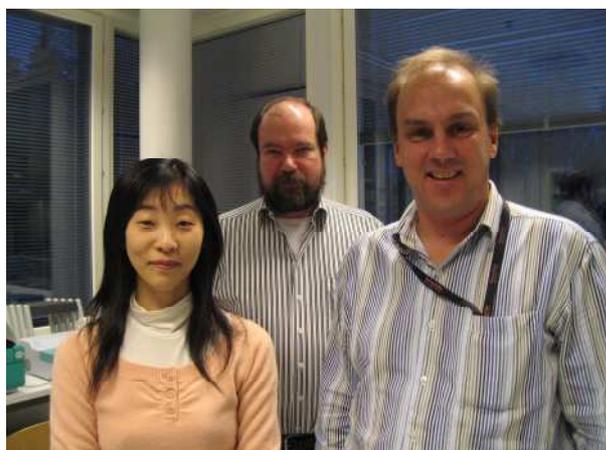
ピペットキャリブレーションルーム

## 2. 認定取得準備中のエピソード

私たちの扱うマイクロピペット校正には、適用すべき ISO 規格がいくつかあるのですが、そのうちの一つに驚いたエピソードがありますのでご紹介させていただきます。

何度電卓をたたいても、ある計算式の答えがどうしても合わないのです。コンサルタントも首をかしげ、インターネットで検索してもヒントはなく、途方に暮れていたのですが、ひょっとしたらと思い弊社の数カ国のサービスセンターに相談したところ、フィンランドチームから「英語版を見ているでしょう。その式は印刷ミスでマイナス符号の付け忘れが 2 か所あるよ。フランス語版では正しい式が載っているんだ。」との答えをもらうことができました。どうりで計算が合わないはずです……。もともとその ISO 規格には日本語版がないため、四苦八苦しながら英語版を読んでいたのですが、まさかフランス語版まで読むことになるとは！外資系企業でなければこのフランス語版には到底たどりつかなかったでしょう。

ちなみに、現在は正式にこの ISO 規格の訂正文書が発行されておりますので、私のように何日も悩む人はもういないはずです。



撮影：フィンランドにて  
1月 16:00 頃  
北欧の冬は夜が長く、撮影時  
は日没後の雪明りの空です。

フィンランド本国の技術者と岩崎（左）

### 3. JABLAS 参加の目的と期待

JAB の試験所等認定機関数は 2011 年に 350 件を超え、現在も増加の傾向とのことですが、そのうち校正機関の数は 2011 年に 27 件であり、全体の 10%にも満たないシェアです。その背景には JCSS の影響もあるとは思いますが、少し寂しい数字です。さらには、その校正機関の多くは電流や電圧を扱う電磁気量の認定業者さんが多く、体積計を扱う私たちがいかにマイナーな業種であるかを実感しています。しかしながら、JABLAS の試験所見学会をはじめ、セミナーや勉強会等を通して様々な業種の認定業者さんと意見交換ができる機会に恵まれており、大変感謝しております。

特に、皆さんも実感された方が多いと思いますが、試験所見学会は多くのことを学べる絶好の機会です。業務の流れから品質確保のためのシステム、ISO/IEC 17025 取得の背景やその後の管理、スタッフ教育方法まで、私自身、様々なことを勉強させていただいております。見学コース内においても案内のご担当者は参加者のその場の質問に快くご回答くださり、私たちは自社のシステムと比較したり改善の参考にしたりと、まさに生きた教科書となっています。私が過去に参加しました日本環境株式会社様、財団法人 日本冷凍食品検査協会様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。

また、今年から校正専門部会が立ち上がり、分野が違えど同じ境遇や悩み、目的を持つ方々とより深い議論ができるとのこと、今後の活動内容にも期待しております。どうぞ、よろしく願いいたします。

以上

## 会員の声（その2）

### 「ISO 15189 への取り組み」



株式会社 大阪血清微生物研究所  
検査準備部 部長 吉川 栄

#### 1. はじめに

弊社は、1927年サンノ薬品試験所付属として創設し、1942年に民間臨床検査機関の先駆けとして誕生しました、微生物検査主に梅毒検査から始まりましたが、機械化にも力を注ぎ1964年

には自動血球計数機をいち早く導入。又 1966 年には大阪血清衛生検査技師養成所（大阪血清公衆衛生専門学校）を設立し、人材育成にも力をそそいでまいりました。

現在、大阪、奈良、和歌山三箇所を拠点に地域の臨床検査機関として、大手検査機関には出来ないスピードを全面に出し、臨床の先生方にいち早く役立てて頂けることを目標にし、2011 年には検査棟を新設し、遠心・搬送全自動化により更なるスピードへの挑戦を続けています。

## 2. 認定取得まで

ISO については 2004 年に ISO 15189 認証の取得、ISO 9001 認証取得を経て 2008 年には新たに J A B 認定を取得しました。認証以前からの取り組みですので、約十年間、ISO の国際規格に取り組んで、4 月には最初の継続審査を無事終了致しました。

当初コンサルタントをお願いしましたが、ISO 15189 は出始めでしたので、直訳のような難解な文書に悩まされ、この文章は何を表現されているのか判らず、担当者での独自の判断を加えていました。コンサルタントも当然経験もなかったもので、今から考えると冷や汗がでるほどの対応振りでした。是正期間と確認日などは取得後に考え方の修正をしたのを覚えております。



検査室概観

## 3. ISO 15189 の取り組み

文書については、担当部署を決めて、月 1 回担当者を集め規定以上の文書を読む事により文書

に親しみ文書の見直しも出来、理解も浸透出来ると思いい現在でも継続中です。

是正予防処置の考え方について、以前から苦情処理台帳的なものは有りましたが、統一された考え方、方法では無かった為にただ記録としての残っていただけで飾りでしか有りませんでした。ISO の考え方を一つの指標として取り込み使う事により、自施設の咀嚼され、ようやく一つの方向性が出来て来たと思っております。

特に苦情過誤については、毎月統計を取り、原因別、部門別、に件数を出すことで、ポイントを絞り対応する事により漫然と個々に対応していたものが、1/5 へ劇的に減少したものが有りました、これこそが ISO 取り組みの結果の一つだと考えます。

大きなもう一つの取り組みとして、ペーパー管理では無く、出来るだけ電子媒体で記録を残すように考え、社内LANでの対応を行い文書管理、苦情過誤、内部監査、予防処置等の結果、検査室電話対応の記録においても何処からでも登録、閲覧出来る様にしました。そうする事により過去の結果を、月又は年単位、部署単位、監査員単位で閲覧出来、特に内部監査員が変わっても過去の指摘事項が確認出来るようにし、重複的な監査をしないようにしました。苦情の顧客単位での閲覧も出来る為、営業又はインフォメーションの資料としても利用出来るようにしています。



## 検査装置

### 4. 今後の課題

今後の取り組みとして、矢張りマンネリ化が出て来ていますので、ISO 担当者の変更だとか、新たな監査員の育成にも今後、取り組まなくてはならないと思っています。ISO は導入後、ど

の様に自施設の遣り方に融合出来るかが鍵に成って来ると思いますので、沢山の事例を収集し紹介し他施設の取り組みを知ることにより自施設への展開が出来る様なつなぎ役を JABLAS には期待しておりますし、未導入施設への導入の足がかりに成るのではないのでしょうか。

以上

## 活動報告

2012年7月以降の主な活動を紹介します。

### 1. JAB/JABLAS 共催セミナー

例年、JAB との共催で不確かさセミナーを実施していますが、今年は、「不確かさにおける統計的手法について・基礎から応用まで」と題して、2012年7月3日（大阪国際会議場）及び2012年8月1日（東京都品川区立総合区民会館 きゅりあん）に、合わせて268名と多数の参加を得て開催しました。講師は昨年と同じ独立行政法人 産業技術研究所の田中秀幸 様でしたが、わかりやすい内容であったと好評でした。

### 2. 審査員クラブ

2012年7月4日に大阪国際会議場で開催しました。2012年3月に東京で実施した審査員クラブと同一主旨で、関西地区の審査員会員の声を聞くために開催したものです。

当日は所用等で急遽欠席の方もあり、残念ながら参加数は3名となりましたが、貴重なご意見をいただくことができましたので、今後の運営に反映させていただきます。

### 3. 機械・物理専門委員会

2012年7月17日に JAB 会議室において、21名の参加を得て、2012年度第1回機械・物理専門部会を開催しました。内容は、下記のとおりで、専門分野は異なっても参考になったとの講評をいただきました。

- ・ 活動事例発表 2件
  - 「試験所認定取得後の活動状況」 財団法人 茨城県建設技術管理センター 技術部 技術課長 石井 盛男 様
  - 「船舶分野における試験所認定」 社団法人 日本船舶品質管理協会 製品安全センター 次長 村山 雅己 様
- ・ 校正専門部会の発足と活動状況 JABLAS 幹事 大黒 常雄
- ・ 今後の機械・物理専門部会活動の進め方 JABLAS 幹事 木村 博則

### 4. 「食品・理化学試験 バリデーションと不確かさの求め方」セミナー

2012年7月24日に JAB 会議室にて、20名の参加を得て、下記内容で開催されました。

- ・ 不確かさ、妥当性確認、トレーサビリティ
- ・ 妥当性確認 (Validation) と検証 (Verification)
- ・ 食品分野における「不確かさの推定」と「不確かさの評価」

講師の JAB 森 曜子 プログラムマネージャーのわかりやすい解説でよく理解できたとのコメントを多くいただきました。

## 5. 「トップダウン方式（分散分析）を利用した不確かさ求め方」セミナー

2011年8月7日に JAB 会議室にて、34名の参加を得て、下記の内容で開催されました。「トップダウン方式（分散分析）を利用した不確かさの求め方」の概説の後、種々の計算ソフトを使用しての実習を行い、実務に即役立つよう工夫をしました。

講師は、JABLAS 代表幹事の青柳 邁 でした。

## 6. 「第3回経営者向けの試験所認定とマネジメントレビュー」セミナー

2012年9月18日に JAB 会議室にて、14名の参加を得て開催しました。

内容は、ISO/IEC 17025 規格の意図（経営者の責任と権限、内部監査、マネジメントレビューを中心に）、試験所認定制度の概要、国際相互承認の仕組み、試験所認定に関する最新情報、認定のメリット、試験所経営に関するセミナー情報等でした。

このセミナーは、今年で3年目になりますが、試験所の経営層を対象としたセミナーが他にないことから、年々参加者が増加しています。参加者からは、課題を整理して参加したが、大変勉強になった、他の機関の経営層と意見交換ができたのが良かったとの評価をいただきました。講師は JABLAS 会長の井須 雄一郎 でした。

## 7. 「GUM の解説」セミナー

2012年9月19日及び2012年9月26日に、それぞれ大阪国際会議場 会議室及び JAB 会議室で、合計55名の参加を得て開催しました。

講師は、昨年と同じく独立行政法人 産業技術総合研究所 計測標準部門の城野 克広 様でしたが、一般にはやや難解な内容を、図解を交えて懇切丁寧に解説していただき、参加者のご期待に応えたものと考えます。

不確かさのバイブルである GUM に関するセミナーは、来年も実施する予定です。

## 8. 宮川公開塾

塾長に JABLAS 契約コンサルタントの宮川 雅明 様をお迎えした、5回シリーズの「宮川公開塾」が、この9月11日（火）終了しました。5回の延参加数は60名となり、参加者から大変好評をいただきました。

### <開催主旨・目的>

- ・ 我国の経済環境・市場は大きく変化しているのは既にご存知の通り。
- ・ グローバル市場の更なる発展により、我国の試験所市場も大幅な経営戦略の再検討や新たな人材育成が余儀なくされているのではないか。
- ・ 試験所の将来はどのようにあるべきか、ビジネスリーダーは何を考えねばならないか。
- ・ これらの経営課題や問題点をディスカッションで体得し、課題をまとめてプレゼンテーションする能力を向上させることを目的とした。

### <実施方法>

- ・ 参加は機関単位（2～3名）とし、各回テーマに添って講義と議論を行う。
- ・ 塾長より予習・復習の課題も出され、最後の5回まで単なる座講ではなく、内容をしっかり身に着け、実戦で役に立つことを重視した。

## <各回のテーマ>

- 第1回 2012年5月24日 (木) 「わくわくするようなビジョン創りとリーダーシップ」
- 第2回 2012年6月14日 (木) 「戦略とマーケティングの原理原則と実践入門」
- 第3回 2012年7月10日 (火) 「良く分かる財務・損益管理」
- 第4回 2012年8月22日 (水) 「PDCAやモチベーションなど組織マネジメント」
- 第5回 2012年9月11日 (火) 「発表会 と 懇親パーティ」

## <事前課題>

各回の開催約1か月前に、参加者全員に下記の書籍を配布し、感想文を提出して頂きました。

- 第1回 「仕事の哲学」 P.F. ドラッカー ダイアモンド社
- 第2回 「V字回復の経営—2年で会社を変えられますか」 三枝 匡  
日経ビジネス人文庫
- 第3回 「経営学」 小倉昌男 日経BP社
- 第4回 「リッツ・カールトン 超一流サービスの教科書」  
レオナルド・インギレアリー共著 日本経済新聞出版社
- 第5回 「小さく賭けろ」 ピーター・シムズ 日経BPマーケティング

## <事後課題>

各回の終了後に、下記項目をメールで送り、自機関の経営課題について挑戦をして頂きました。

- ・事業ビジョンを描く
- ・外部環境分析を行う
- ・損益分岐点を計算する
- ・行動様式を変えるためのイノベーション

## <発表・議論>

第5回では、これまでの講義や議論を踏まえて、自分たちは何をすべきかについて、発表・ディスカッションを行いました。

参加者からは、「これまで試験所経営について真剣に考えることはなかったが、大いに刺激を受けた。現在自組織が置かれている状況を打破する方策に悩んでいたが、貴重なヒントが得られた」等の感想が寄せられました。

講師の宮川 雅明 様より、公開塾終了に当たって次ページのとおり、感想をいただきましたので、ご紹介いたします。



JABLAS 契約経営コンサルタント  
宮川 雅明

## 「公開宮川塾を終えて」

「あっという間に終わりました。楽しかった。」

最終5回目が終わり、懇親会に入る際に、参加メンバーから発せられた言葉だ。毎月1回、遠方から参加される方もいる。仕事がある中での受講はしんどい時もあったと思うが、皆積極的に参加いただいた。感謝申し上げたい。

当初、宮川塾というネーミングは恥ずかしく思ったが、試験所経営をグローバルに高めていくことは大局から必要なことと考え、できるだけのご支援をさせていただこうと思った。試験所には、公益系、インハウス、独立系の3つのタイプがあると考えられる。どの形態であっても、国内人口が減少していくのであるから、規模の縮小は避けられない。海外に多くの工場を建設し続けるトヨタ自動車は、国内に100万台以上の生産設備余力があるといわれている。海外進出は海外で活躍できる企業が進出するのではなく、海外に行かないと生き残れないとして進出していく企業が多い。やむにやまれぬ進出である。

このように生産拠点や営業機能などの移転或いは海外の会社の買収などが進むと、所得収支が大きくなる（海外からの利息・配当収入（-）海外への利息・配当支払い）。GDPに所得収支を加減したものがGNI（国民総所得：Gross National Income）である。このGNIとGDPの差は約13兆円程度で確実に広がっている。貿易収支はLNGなどの輸入で赤字（約2.5兆円）となったが、10兆を超える所得収支で経常収支は黒字になっている。

為替リスクの観点からみても円高リスクの軽減にも繋がっている。円建てで海外の日本現地法人と国内との取引になっているからである。また、外貨建ての輸入が輸出を上回っている状況でもある。電力用LNGの輸入増大を含め、円高はむしろメリットの方が大きいともいえる構造に変化しつつある。

よって、海外で稼いだお金を如何に国内還流させていくかが課題である。国内還流させたキャッシュを環境インフラ特にエネルギー関係、例えば、部品点数の多い風力発電などに振り向け、新たな産業を育成していくことが喫緊の課題である。

TPPのような自由貿易の動きは、保護主義を排除し世界経済を安定させるためにも今後進んでいくだろう。特に就業人口の減少が激しい分野での製品の輸入は増えるであろう。

こうしたグローバル経済の動きの中で、試験所経営の将来像を如何に描いていくかが当塾の命題である。

試験所経営という視点で見ると、特徴的なことが2つある。マーケティング機能がない、コストセンターとして見られている、の2点である。

マーケティング機能がないというのは、顧客を創造する機能がないということである。よって、自律した経営にならない。試験所には高価な設備と優秀な人材が必要である。よって、前提として高コストになる。運送業やサービス業のように僅かな投資で操業できるものではない。従って、一定のそして安定的な設備稼働率が求められる。そのためには、多様な顧客或いは多様な製品・サービス群を持つ必要がある。今保有しているケイパビリティ（強み）を棚卸しして、活用範囲の可能性を探りながら成長機会を創造していくマーケティング能力が強め求められる。

稼働率の低い設備があるのであれば、ネットで使用を呼びかけ予約を受け付けるなどして集中機能を高めていく、或いは研究開発機能に入り込み、生産性や安全性を高めるコンサルティングサービスを行うなど、蓄積した有形・無形の資産をフルに活用することである。

コストセンターとして見られるということは、必要な機能であるが、売上や利益の拡大には繋がりにくいという見方である。それは垂直統合された形で試験という機能が存在するとコストという色合いが強くなる。よって、水平統合するなどバリューチェーン全体を見た試験所独自のビジネスモデルを構築する段階にある。

その場合、仕事がうまく集中したとする。一方で労働力が求められることになり、人的生産性が強く求められるという課題に直面する。サービスを特化するかグローバルに人材を結集してでも業務を集中するか、方向性は異なるものの戦略に正解はない。そして何よりも成長戦略に挑戦する、事業の実験をするという姿勢が求められる。

## 今後の予定

2012年10月から2013年1月にかけての主な予定をご紹介します。詳細につきましては、順次JABLASウェブサイトにて、ご案内いたしますのでご参照ください。

1. 第十二回ラボラトリーの為の内部監査員養成セミナー  
開催日 2012年10月4日(木)、5日(金)  
開催場所 JAB 会議室 (注) 本セミナーは、申し込み受付を終了しております。
2. 第十三回ラボラトリーの為の内部監査員養成セミナー  
開催日 2012年10月11日(木)、12日(金)  
開催場所 大阪国際会議場 会議室
3. 第1回検査機関(ISO/IEC 17020)の為の内部監査員養成セミナー  
開催日 2012年10月16日(火)、17日(水)  
開催場所 JAB 会議室
4. 易しい不確かさとトレーサビリティの考え方  
開催日 2012年11月8日(木)  
開催場所 JAB 会議室
5. 校正専門部会  
開催日 2012年11月19日(月)  
開催場所 大阪国際会議場 会議室
6. 化学専門部会/試験所見学会併営  
開催日 2012年11月30日(金)  
開催場所 栃木県 競走馬理化学研究所
7. ISO/IEC 17025 マネジメントシステムの作り方セミナー  
開催日 2012年11月20日(火)  
開催場所 JAB 会議室
8. 易しい不確かさとトレーサビリティの考え方セミナー  
開催日 2012年11月27日(火)  
開催場所 大阪国際会議場 会議室
9. 微生物試験 バリデーションと不確かさの求め方セミナー  
開催日 2012年12月6日(木)  
開催場所 JAB 会議室
10. 機械・物理専門部会  
開催日 2012年12月11日(火)  
開催場所 JAB 会議室
11. モンテカルロ法による不確かさの求め方セミナー  
開催日 2013年1月17日(木)  
開催場所 JAB 会議室

## 事務局日より

### 1. ウェブサイト改訂のお知らせ

既にお気づきの方も多いと存じますが、7月にトップページ・セミナーページをより使いやすくするために改訂いたしました。

皆様には、今まで以上にご利用いただけますようよろしくお願い申し上げます。



#### <トップページ>

- メインビジュアルが動くようになりました。  
→今後様々な情報を発信致します。
- セミナー情報をわかりやすく  
→ご好評頂いておりますセミナーに関して情報がすぐわかるようにトップページでも表示致します。



#### <セミナーページ>



- 講師の写真を表示
- 簡単な内容を表示  
→興味をもってもらうために概要をすぐ読んでもらえる部分に入れました。
- 詳細ページの充実  
→セミナーの詳細ページが今までよりも充実致します。

## 2. 面接相談日の開設

既にご案内のとおり、2012年9月より日を決めて、ISO関連事案の各種ご相談について、面接相談日を設けることにいたしました。

第一回は9月10日午後に実施され、5件の相談をお受けしました。原則として、相談日は1回/月(午後)で、1機関・1組・1テーマ・1時間とさせていただきます。事務局にて時間割をさせていただきます。費用は無料ですので、お気軽にご相談ください。

次回以降の予定は、既に御案内のとおり、10月1日(月)、11月7日(水)及び12月10日(月)ですが、その先の相談日の予定については、JABLASウェブサイト及びメールにて都度お知らせいたしますので、よろしくご確認願います。

なお、従来からメール、Fax、電話等でいただいている相談は、今後も随時お受けいたしますが、担当幹事が不在等により、ご不便をお掛けすることがあるかと存じますので、予め内容をお聞きして対応ができる、面接相談日の活用をお願い申し上げます。

## 3. 新規会員の募集

2012年9月30日現在の会員数は、機関会員111件、個人会員88件、名誉会員3件、合計202件となっています。本年度は、JABLAS活動の基盤強化のため、新規会員の募集に注力しておりますので、是非ご関係の機関、個人の方へJABLAS入会のお誘いをよろしくお願い申し上げます。

ご一報頂ければ、事務局よりご説明にお伺いさせていただきます。

なお、JABLASウェブサイトの「JABLAS会員」ページに関係資料及び入会手続き等が掲載されておりますので、ご活用ください。

以上

編集兼発行人 井須 雄一郎 発行所 J A B 試験所協議会

住所: 〒141-0022 東京都品川区東五反田1丁目22-1 五反田ANビル3F 公益財団法人日本適合性認定協会内

電話: 03-5798-8820 FAX: 03-5798-8821 E-MAIL: info@jablas.jp URL: http://jablas.jp

※無断で複製、転載等を禁じます。